



志・感動・笑顔 3つの「あ」を大事に
 ~あきらめない ありがとう あいさつ~

たてやま

楯岡小学校だより No. 1 1
 令和6年2月21日(水)
 【文責:校長 井上敏春】

楯岡小 Web ページ
 QRコードから
 バックナンバーも
 ご覧ください。



2/19~二十四節気「雨水(うすい)」 陽気よくなり、雪氷は解けて水になり、雪は雨へと変わる時期

自分で・自分たちで「考える 決める 行動する」 「社会の仕組み」を実践的に学んできました



子供たちが「社会」を学ぶ実践の場が学校です。大人の「社会」と同様の様々な手続きを経ながら、共に社会を創る大切さを学びます。その営みのほとんどは、大人がやった方が圧倒的に短時間で済みます。しかし、子供自らが試行錯誤を重ねながらやり遂げることに大きな意義があります。

今年度スローガン「自分で・自分たちで『考える 決める 行動する』」ことの意義や大切さについて、児童会活動における学校生活づくりを通して学んできました。

子供たちは今年度の活動を振り返り、児童委員会の活動内容や数を見直して、11委員会を10委員会に再編しました。これは児童会の中心的立場を担う「たてやま委員会」(4年生以上各学級の代表委員、国では内閣相当?)の発案で、代表委員会(たてやま委員と各委員会委員長で構成、国や県・市の議会相当?)で話し合いを重ねて実現したものです。

去る令和6年1月24日(水)に「令和6年度児童会委員長立候補者立会演説会及び委員長選挙」がありました。5年生からは、10委員会に対して18名もの立候補者があり、各々推薦者を立てて、熱い演説を行いました。演説会には6年生から3年生までが立ち会い、4年生以上が投票しました。児童は投票に関する守秘義務を踏まえ、開票作業も児童会選挙管理委員会が責任をもって行いました。当選・落選を恐れず、自らの志を貫き通して挑戦した18名の5年生に、全員で心からの拍手を送りました。



令和5年度児童会主催・創立150周年記念 「楯小わくわくフェスティバル」



令和6年2月16日(金) 児童会主催の通称「わくフェス」として初開催しました。6年と1年、5年と3年、4年と2年のペア学級の上学年が出店形式のゲームやクイズなどの遊び場を提供し、下学年がお客として参加する形式

で行いました。遊び場の条件として「簡単にできる・作れる」「誰もが楽しめる」「ルールが分かりやすい」などの制限を加えましたが、そうすることで、かえって工夫された企画へとつながりました。上学年の各学級からは代表委員会で企画書が提案され、全体での話し合いを経て決定し、各学級で準備を重ねて当日を迎えました。子供たちの企画力、行動力、温かな交流の姿に感動した一日となりました。



コロナ前の日常が戻ってきた！でもそこに見えたのは“令和の学校・家庭教育の姿”

2月17日（土）朝の早い時間帯からの「授業参観」に始まり、「PTA・子ども会育成会合同研修会」「学級懇談会」が行われました。さらに役員を務める保護者の皆様には、午後の「PTA評議員会」「子ども会育成会全員協議会」と、終日の行事となりました。今回は、コロナ前の日常と同様に、とても多くの皆様にご来校いただきました。ご参加いただいた保護者の皆様、誠にありがとうございました。



ただ、多くの保護者の皆様にご来校いただいたのに、前や奥から詰めて駐車するはずの駐車場に多くの空きがあり、学校としては、非常に恐縮しているところです。保護者の皆様には、格段のご理解ご協力をいただいて、徒歩やご家族による送迎などでご対応いただいたためと理解しており、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

さて子供たちは、朝からの「授業参観」にとっても張り切っていました。どの学年・学級においても、教室内外で参観なさっている保護者の皆様の温かな眼差しを受けながらがんばる子供たちの成長の姿をご覧いただけたのではないかと思います。



その後、アリーナで行われた「PTA・子ども会育成会合同研修会」には、約200名の皆様が集い、とても有意義な研修会となりました。『子供の主体性を育てるかかわり～不登校を生まない関係づくり&そこからの耕しへ～』と題し、子育てに関する研修会講師の第一人者である山形県教育カウンセラー協会代表 松崎 学 先生をお招きしました。松崎先生は、長きにわたり山形大学で教授等を務められた方で、本校教員も多数、

松崎先生に師事しています。令和5年8月15日付け新聞で『『小4の壁』どう乗り越える？ 子と大人、相互信頼の「横」の関係をつくる』という記事が紹介され、満を持しての講演となりました。松崎先生はとてもユーモアにあふれた方で、小グループでの話合いや質疑応答なども交えての90分間はあっという間で、「ぜひ、次の機会も！」との声、多数でした。以下、心に残ったキー・フレーズです。



□子供を取り巻く社会や学校、家庭、地域などの変化への対応が必須！

大人が子供時代に受けてきた教育や価値観などの早急なアップデートが何よりも重要!!

- 教育や価値観のアップデートは、アプリやソフトの入れ替えというレベルではなく、PCを動かすOS（WindowsやiOSなど）そのものを変えるということ。

□大人（保護者や教師など）と子供の間にある「縦」の関係性から脱却が必至！

- ・1990年代ごろ「褒めて育てる」が主流となり、上下の関係を生じさせた。「褒められる」「叱られる」という関係性は、子供間にも上下関係を生じさせてしまった。
- ・子供にとって「良かれ！」と思って「～しなさい」「～した方がいい」「～しないと～だ」など、大人は誰もが子供に上からの関係で指示してしまう。
- 自分が自分で「考える」「決める」「行動する」ことで、自分自身で「気付く」「間違う」「怪我する」などの体験を通して、「成功する」「失敗する」など「試行錯誤を体験する心地よさ」などを体感することが、「自立」する上で最も重要なことである。

□大人（保護者や教師など）が子供と「横」の関係性を構築する「無言の行」「再契約」を！

- 大人は子供に対して「これまで、あなたのことを思って『～しなさい』などと言ってしまっていて、ごめんなさい」と謝ること。そして「これからはあなたのためにやめる。でももし、また言ってしまったら、その時は『それは言わない約束だったよね』って、教えてね。」と宣言すること。「無言の行」「再契約」で主体性を育むこと。

最優秀賞！おめでとうございます。

令和5年度全国読書感想文コンクール山形県審査の結果、最優秀賞を受賞した秋葉芽実さんの作品です。実感のこもった素直な表現から、ご家族の日頃の温かな触れ合いの様子がとてもよく伝わってきます。



令和5年度読書感想文コンクール山形県審査

小学校低学年の部

最優秀賞

村山市立楯岡小学校 一年 秋葉芽実

このほんは、よるにはたらくひとたちのおはなしです。わたしがこのほんをよもうとおもったのはどうしてかというと、わたしのとおとうさんとおかあさんも、よるにはたらくおしごとをしているからです。ほんをよんでおもったことが、ふたつあります。ひとつは、よるにおしごとをするのには、いみがあるということです。でんしゃがおやすみをしているよるのあいだにこうじをしたり、あさにおかあさんのをるおきやくさんのために、よるのうちにスパーにもものをならべたり。よるのおしごとをするのには、いろんなひとのためにやくにたつりゆうがあるんだとおもいました。もうひとつは、よるにはたらくひとたちは、だれかをたすけているということです。わたしのおとうさんは、きゆうきゆうきゆうめいしです。よるもおしごとのひが、いぱいあります。このほんをよんで、おとうさんはよるもきゆうきゆうしやで、かんじやさんのてあてをしているんだとおもいました。おかあさんは、じよんしさんです。いまはおひるしかはたらいていないけど、わたしともうとがもうすしおおきくなつたら、よるもびよういなんてはたらくといっています。あかちゃんもひるだけでなく、よるもうまれるからなんだとおもいました。わたしは、おとうさんとおかあさんが、よるにおしごとに行くのが、ほんとうはさみしいです。おとうさんとずつとにいっしょにいたいし、おとうさんがいないときにかみなりがなつたらこわいです。おかあさんにも、ずつとおひるだけおしごとをしてほしいです。だけど、おとうさんがかんじやさんをたすけたり、おかあさんが、あかちゃんママのけんこうをみまもつたりするのは、とてもたいせつです。ばらばらおしごとなので、さみしいのをちよつとだけがまんして、いってらっしゃいしようとおもいます。かえってえきたら、にこにこえがおで、おかえりとい

課題読書

「よるのあいだに...」

みんなをささえる はたらく人たち
文：ポリ・フェイバー、訳：中井はるの
絵：ハリエツト・ホブダイ

「雪室秘伝豆納豆」生産者との交流給食会

令和6年2月15日(木)に村山市6次産業化推進と食育事業の一環として「雪室秘伝豆納豆」を生産者と一緒に味わう交流給食会がありました。当日は新聞社やテレビ局、楯岡営農組合などからの取材も受けました。学校としては、3年生が今年一年かけて取り組んできた『村山市みりよく発見のたび』の学習の一つです。これまで外部講師として、村山市農林課の小玉隆宣さんを招いて「じゅんさいの魅力と6次産業化推進」について学びました。PTA会長の大山拓也さんには「農家の仕事と大豆畑の様子、秘伝豆納豆の魅力」、母親委員長の坂井奈緒さんには「村山市のお米と餅の魅力」、6学年委員長の緒方替生さんには「蜜入りりんごづくりとりんごジュースの魅力」についてなど、様々な分野のプロの方々から生きた言葉で学ぶことができました。そのおかげで3年生は、11月開催の『たてやま学習発表会』で生き生きと発表し、今度は3月3日(日)に甕葉プラザで開催される「Mura6ロック2024」にも招待を受け、事例発表も行うことになっています。



能登半島地震義援金11万7981円を届けました

令和6年1月23日(火)に楯岡小児童を代表してボランティア委員会委員長と副委員長3名で山形新聞村山支社を訪れ寄託してきました。ご家族皆様で善意をお寄せくださり、誠にありがとうございました。被災された皆様方の一日も早い復興をお祈りします。

ご入学 心よりお待ちしております！

令和6年2月2日(金) 令和6年度新入学児童「一日入学」を開催しました。会に先立ち、村山市より令和6年度新入学児童全員に贈呈される通学用カバン“わんパック”が、志布隆夫村山市長から代表児童に手渡されました。新1年生は3色の中から自ら選んだカバンを背負い、4月の入学をますます心待ちにすることでしょう。各教室では、小学校で出会うことになる新しいお友達を前に緊張しながらも、小学校の先生の話をよく聞き、名前を書いたり絵を描いたりするなどのお勉強に取り組みました。

なお2月21日現在の令和6年度入学予定児童数は、84名、全校児童は491名です。



「古式三月雑」昭和九年二月二十一日
 寄贈 田中吉一様(当時、楯岡楯に在住)
 創立百五十周年の歴史とともに、久々の展示
 となります。実に貴重な逸品です。



雑飾り 展示中



啓塾 3/5、春分 3/20

3月の行事予定

日	曜	給食	関係行事
1	金	○	新通学班での登校開始 6年生へのありがとうの会[5年以下児童会主催]
2	土	—	
3	日	—	
4	月	○	
5	火	○	自動車文庫
6	水	○	フッ素洗口 子ども会育成会役員会
7	木	○	特別支援学級個人面談週間[~12(火)] 児童会代表委員会
8	金	○	
9	土	—	
10	日	—	
11	月	○	いのちの日 卒業式練習[5・6年生]
12	火	○	
13	水	○	子ども会育成会代表指導員会議
14	木	弁	
15	金	弁	修了式[1~4年生年度内最終登校日]
16	土	—	

日	曜	給食	関係行事
17	日	—	
18	月	—	卒業証書授与式[5・6年生最終登校日]
19	火	—	年度末・年度始休業[~4/5(金)] 職員年度末事務[~3/29(金)] 教室移動・大掃除
20	水	—	春分の日
21	木	—	職員年度末事務
22	金	—	職員年度末事務
23	土	—	
24	日	—	
25	月	—	職員年度末事務
26	火	—	職員年度末事務
27	水	—	職員年度末事務 ※新年度の学級発表(クラスルームにて)
28	木	—	職員年度末事務
29	金	—	職員年度末事務
30	土	—	
31	日	—	

【参考】4月の主な行事予定[2/21現在]
 4/ 6(土) 新式、始業式、入学式[弁当なし]
 8(月) 振替休業日[4/6(土)の分]
 9(火) 午前授業[弁当なし]
 20(土) 午前授業[弁当なし]
 学習参観、PTA総会、学年・学級懇談、PTA歓迎会
 22(月) 振替休業日[4/20(土)の分]
 23(火)・25(木)・26(金) 家庭訪問[希望制]